

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 5月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078400100
法人名	社会福祉法人 多聞福祉会
事業所名	彌栄苑グループホーム
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) 0943-32-5630
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 4月 23日

## 【情報提供票より】(平成 19年 4月 3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.3人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	RC造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(平成 19年 4月 3日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.75 歳	最低 80 歳	最高 98 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

整形外科・介護老人福祉施設・通所介護・訪問介護を運営する中で、グループホームの必要性を認識し、平成14年4月に開設されたホームである。「笑顔で声かけ・思いやりの心を持つ・家族の一員として接する」というわかりやすい理念を掲げ、穏やかにゆったりとしたペースで時が流れている。利用者のさまざまな要望に幅広く応えてくれるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義や目的を全職員が理解しており、ありのままの取り組みを評価することによって、ケアの改善と向上に繋げていきたいという姿勢である。日頃より全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には、利用者・家族等・地域代表・行政職員が参加している。内容としては事業所の現状報告を行い、ケアの質や要望について利用者の立場で意見を頂けるよう取り組んでいる。その都度、議事録と改善計画を作成し、次の会議に報告すると共にサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族等の面会時、請求書送付時、電話連絡やホーム便り等で報告をすると共に、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。苦情は言い出し難いという心情を推察し、苦情申し立て先・相談先として公的窓口の紹介を電話番号と共に重要事項説明書に明記し、また玄関先に「ご意見箱」を設置している。
④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として自治会に加入しており、道路清掃、お祭り等の地域活動・行事に利用者と共に参加し、地元の人々と交流を図っている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいの中で、地域住民の一員としての支援を含めた「笑顔で声かけ・思いやりの心を持つ・家族の一員として接する」という明確な理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員で理念の確認を行い、実践に向けて取り組んでいる。職員の採用時には必ず理念を伝え、共有の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入しており、道路清掃・お祭り等、地域行事に利用者と共に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はサービス評価の意義や目的を理解しており、日常的に自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族等・地域代表・行政職員等が参加している。会議では現状報告を行い、意見や要望を受けてサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の現状報告や行事案内を行い、内容や質について利用者の立場で意見を頂けるよう、常に連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は利用者や家族等へこの制度の活用について、情報提供できるよう研修を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時、請求書送付時、電話連絡・ホーム便り等で現状報告を行い、職員の異動は家族会で報告し紹介を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等相談窓口担当者及び苦情申し立先・相談先として公的窓口の紹介を電話番号と共に重要事項説明書に明記している。且つ、家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見や要望を出して頂き、家族より得られた意見を運営に反映させるように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設6年目で1名の離職者があったが、離職を最小限に抑えるよう働きやすい環境作りに努力している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20歳代～50歳代の男・女職員が生き生きと勤務しており、利用者には支障のない範囲で社会参加のための勤務調整を行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権の尊重を念頭に、笑顔と思いやりの心で家族の一員として入居者に接するよう取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階に応じて、研修が受けられるよう計画をたて、積極的に参加させている。研修の報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、勉強会を開催し交流を図っている。	○	交流を図っているようであるが、残念ながら記録が残されていない。交流時は実施記録を作成し、次回へ繋ぐよう取り組んで頂きたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等が安心して利用できるように、納得がいくまでホーム内を見学して頂いたり、遊びにきて頂き、徐々に雰囲気に馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・される側という意識を持たず、日々変わる本人の訴えや思いを受け止め、利用者がしたいこと・できそうなことを職員と一緒にやっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のこれまでの生活を振り返り、家族等からの情報を得て個々の意向の把握に努め、出来る限り本人の希望に添った支援を行っている。		
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等に要望や意向を伺い、職員間で十分に話し合っってそれぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行うとともに、本人及び家族等との話し合いで必要に応じて、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に合わせ家族の希望を伺い、通院介助・リハビリ付き添い等、その時々々の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医への受診及び併設クリニックでの医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期介護について現在、家族や関係者とは話し合いを持ち、具体的な内容の検討に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の希望により方言で言葉がけをしたり、一人ひとりに合わせた対応を行っている。個人情報の取り扱いについても十分配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の所要時間、入浴や散歩など一人ひとりのペースに合わせて、一日の生活がゆったりと流れるよう支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、食材の下準備や後片付け等を職員と共に行い、嫌いな献立については個別に対応している。職員も全員同席して摂食している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間に制限はなく、利用者の希望により純金風呂・光明石温泉・ひのき風呂等、その日の気分で入浴を楽しんで頂けるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設施設のリフト車を利用してドライブ・レストランでの食事・季節毎の花見、カラオケ等、気晴らしの支援に取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には買物や散歩等に声かけし、一人ひとりのその日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階に設置されているため、階段の転落等の心配があり鍵をかけている。	○	危険防止のためやむを得ず出入口に施錠されているが、鍵をかけない方向での検討が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年3回の避難訓練を行っている。防災委員会を設け組織図や対策マニュアルを作成し、職員に周知している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を毎食記録し、全職員が共有している。体調不良時は様子を観察しながら高カロリー飲料等で個別支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に一人用・数人用の椅子が設置され、利用者はそれぞれ自由に過ごしている。天窓を設けて自然の明るさを採り入れている。また室温にも配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使用されていた馴染みの物品を持ち込み、安心して過ごせるよう支援している。希望があれば家族の宿泊も可能である。</p>		